

鹿児島工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	解析学
科目基礎情報						
科目番号	0059		科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	情報工学科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	教科書:「新微分積分Ⅱ」高遠節夫 ほか著、大日本図書。参考書・補助教材:「新微分積分Ⅱ 問題集」高遠節夫 ほか著、大日本図書。「新編 高専の数学2 問題集 (第2版)」田代嘉宏 編、森北出版。「新編 高専の数学3 問題集 (第2版)」田代嘉宏 編、森北出版。					
担当教員	村上 浩					
到達目標						
(1) 簡単な数列の収束・発散を調べ、極限値を求めることができる。 (2) 関数のマクローリン展開を求めることができる。 (3) 基本的な関数を偏微分することができる。 (4) 2変数関数の極値を求めることができる。 (5) 2重積分を累次積分になおして計算することができる。 (6) 極座標を用いて2重積分を計算することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
簡単な数列の収束・発散を調べ、極限値を求めることができる。	いろいろな数列の収束・発散を調べ、極限値を求めることができる。		簡単な数列の収束・発散を調べ、極限値を求めることができる。		数列の収束・発散を調べ、極限値を求めることができない。	
関数のマクローリン展開を求めることができる。	関数のマクローリン展開を求めることができる。さらに、マクローリンの定理を利用して、近似値とその誤差の限界を求めることができる。		関数のマクローリン展開を求めることができる。		関数のマクローリン展開を求めることができない。	
基本的な関数を偏微分することができる。	基本的な関数を偏微分することができる。さらに、合成関数の微分の計算ができる。		基本的な関数を偏微分することができる。		基本的な関数を偏微分することができない。	
2変数関数の極値を求めることができる。	2変数関数の極値を求めることができる。さらに、条件つき極値を求めることができる。		2変数関数の極値を求めることができる。		2変数関数の極値を求めることができない。	
2重積分を累次積分になおして計算できる。	2重積分を累次積分になおして計算できる。さらに、立体の体積を計算できる。		2重積分を累次積分になおして計算できる。		2重積分を累次積分になおして計算できない。	
極座標を用いて2重積分を計算することができる。	極座標を用いて2重積分を計算することができる。さらに、一般の変数変換により、2重積分を計算できる。		極座標を用いて2重積分を計算することができる。		極座標を用いて2重積分を計算することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	(1) 数列の極限、無限級数、関数の展開（主にマクローリン展開）を学習する。 (2) 2変数関数の微分積分（主に偏微分、2重積分）を学習する。					
授業の進め方・方法	前学期: (1) 数列の極限と無限級数 (2) 関数の展開 (3) 偏微分の計算 後学期: (4) 偏微分の応用（主に2変数関数の極値） (5) 重積分の計算（主に累次積分、極座標変換） 以上の項目を講義形式で行う。					
注意点	(1) 数学基礎A 1～B 2、微分積分Ⅰ・Ⅱ、線形代数Aの基礎知識を前提とする。 (2) 教科書や配布プリントを参考に予習を行うこと。授業に集中すること。 (3) 受講後は問題集などで問題を解き、解法を身に付けること。 (4) 2変数の微分積分は工学の基礎である。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	関数の展開		簡単な関数の2次近似式を求めることができる。	
		2週	同上		関数の近似式を求め、誤差の計算ができる。 ランダウの記号を使うことができる。	
		3週	同上		簡単な数列の収束・発散を調べ、極限値を求めることができる。 いろいろな数列の収束・発散を調べ、極限値を求めることができる。 級数の収束・発散を調べ、和を求めることができる。 べき級数の収束半径を求めることができる。	
		4週	同上		マクローリンの定理を使うことができる。 テイラーの定理を使うことができる。 マクローリンの定理を用いて関数の極限値を求めることができる。	
		5週	同上		関数のマクローリン展開をもとめることができる。 関数のテイラー展開を求めることができる。	
		6週	同上		オイラーの公式を使うことができる。	
		7週	偏微分		2変数関数の極限値を求めることができる。	
		8週	同上		基本的な関数を偏微分することができる。	
	2ndQ	9週	同上		同上	
		10週	同上		全微分の計算ができる。	

後期		11週	同上	接平面の方程式を求めることができる。	
		12週	同上	同上	
		13週	同上	2変数関数の合成関数の微分の計算ができる。	
		14週	同上	同上	
		15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する	
		16週			
	3rdQ	1週	偏微分の応用	高次偏導関数の計算ができる。	
		2週	同上	2変数関数の極値を求めることができる。	
		3週	同上	同上	
		4週	同上	陰関数の微分ができる。	
		5週	同上	条件つき極値を求めることができる。	
		6週	同上	包絡線の方程式を求めることができる。	
		7週	重積分	2重積分の定義を説明できる。	
		8週	同上	2重積分の計算ができる。	
		4thQ	9週	同上	積分順序を変更することができる。
			10週	同上	極座標を用いて2重積分を計算することができる。
			11週	同上	2重積分の変数変換ができる。
			12週	同上	広義積分の計算ができる。
			13週	同上	2重積分のいろいろな応用ができる。
			14週	同上	同上
			15週	試験答案の返却・解説	各試験において間違った部分を自分の課題として把握する
			16週		

評価割合				
	試験	課題	態度	合計
総合評価割合	75	25	0	100
通年成績	75	25	0	100